

令和4年度 第2回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録

会議の概要

開催日時		令和5年1月18日（水）13時30分から15時10分まで	
開催場所		多摩区役所 11階 1101～1103 会議室	
出席者の氏名	委 員	安倍修司（多摩区商店街連合会） 有北いくこ（多摩区こども総合支援連携会議） 内田由美子（川崎市多摩区社会福祉協議会 地域課） 大澤敏夫（菅地区社会福祉協議会） 大津努（稲田地区社会福祉協議会） 小川町子（多摩区食生活改善推進員連絡協議会） 奥沢邦雄（中野島地区社会福祉協議会） 和秀俊（田園調布学園大学） 木澤静雄（登戸地区社会福祉協議会）	岸忠宏（多摩区医師会） 小峰信子（生田地区社会福祉協議会） 小山富士子（多摩区子ども会連合会） 佐久間真弓（よみうりランド花ハウス 地域包括支援センター） 田子洋平（多摩区地域自立支援協議会） 松澤明美（多摩区民生委員児童委員協議会） 松本英嗣（多摩区町会連合会） 吉田紀代子（川崎市多摩区社会福祉協議会）
	多摩区地域包括ケアシステム推進本部幹事会・多摩区支え合いのまちづくり推進会議 事務局	藤井智弘（多摩区長） 鈴木智晴（総務課長） 宮本紀昭（企画課長） 柏原美由紀（生涯学習支援課長） 渡辺陽一（区民課長） 中山礼子（保険年金課長） 吉澤朋充（生田出張所長） 倉真佐恵（児童家庭課長） 荒木啓介（高齢・障害課長） 岩崎美穂（保護1課長） 徳丸千大（保護2課長） 小倉充子（衛生課長） 大谷里美（保育所等・地域連携担当課長） 小川幸（学校・地域連携担当課長） 井野康信（道路公園センター管理課長）	加藤弘（地域みまもり支援センター所長） 塚本和秀（地域みまもり支援センター副所長） 高橋みゆき（地域ケア推進課長） 曾我利江（地域支援課長） 林史大（地域ケア推進課企画調整係長） 青柳美登理（地域ケア推進課企画調整係）
欠席委員		山岸勝子（多摩区老人クラブ連合会）	

議 事	(1) 地域包括ケアシステム推進のための取組について (2) 第7期多摩区地域福祉計画策定／多摩区支え合いのまちづくり推進会議のスケジュールについて (3) 第6回川崎市地域福祉実態調査について (4) 第7期多摩区地域福祉計画策定の方向性について (5) その他
傍聴人の数	なし
配付資料	[配布資料] 資料1…名簿 資料2…多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱 資料3…多摩区支え合いのまちづくり推進会議について 資料4…第7期多摩区地域福祉計画策定／多摩区支え合いのまちづくり推進会議のスケジュールについて 資料5…第6回川崎市地域福祉実態調査について 資料6…「地域の生活課題に関する調査」調査票【市民】 資料7－1…アンケート実施団体一覧 資料7－2…「地域福祉活動に関する調査」調査票【団体】 資料8－1…ヒアリング対象団体一覧 資料8－2…ヒアリングシート 資料9…第7期多摩区地域福祉計画策定の方向性について（案） 資料10－1…令和4年度 地域包括ケアシステム構築に向けた主な取組について 資料10－2－1～4…令和4年度 地域包括ケアシステム構築に向けた地域づくりに について（登戸・菅・中野島・稲田・生田） 資料11…地ケアフォーラム×生涯学習交流集会チラシ [冊子資料] 第6期多摩区地域福祉計画

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局（高橋課長）	次第１（開会）
	（会議録作成のため録音の承認）
藤井区長	次第２（挨拶）
事務局（高橋課長）	配布資料の確認
事務局（高橋課長）	次第３（議事）
	・ 生田地区社会福祉協議会の委員の改選について ・ 座長を和委員にお願いしたい旨提案→承認
和委員	只今御指名いただきました田園調布学園大学、和と申します、よろしくお願いいたします。 それでは次第にしたがいまして議事を進行する。 議事（１）について 事務局より説明をお願いします。
事務局（林課長補佐）	次第３（議事）
	（１）地域包括ケアシステム推進のための取組について 資料１０－１、１０－２－１～４の説明
和委員	事前に資料をお送りしているのでお目通しいただいているかと思うが、また後ほど思い出すことがあれば御質問いただければと思う。 続いて（２）第７期多摩区地域福祉計画策定／多摩区支え合いのまちづくり推進会議のスケジュールについて 事務局より説明をお願いします。
事務局（青柳）	次第３（議事）
	（２）第７期多摩区地域福祉計画策定／多摩区支え合いのまちづくり推進会議のスケジュールについて 資料４の説明
和委員	来年度は少しタイトなスケジュールになる。 今回の会議でお示しするのは確定しているものではなく、あくまでもヒアリングでいただいた御意見を反映させた、次期計画策定の方向性を示したものとなり、それに基づいて皆様方の御意見をいただきたい。 この会議は懇談会形式で、皆様の御意見をいただくととても貴重な場になっている。他の自治体の地域福祉計画審議会の会長をしているが、こんなに丁寧に御意見を伺うということはない。そういった意味でこの会議は非常に貴重な機会であるため、ぜひ沢山御意見をいただければと思う。
有北委員	４月以降に３回の会議があるが、それをすべて今回のような形式で実施するのはもったいないと思う。３回のうち１回をワールドカフェ形式にするとか、気楽に意見を出せるようなレイアウトや、会議進行の工夫をするといったいいのではないかと。そうでないといつも意見を言う人は同じ人ばかりになってしまうのではないかと。思う。

発言者	発言要旨
和委員	実は有北委員が仰っていただいたような方法で実施しようと考えたが、会場の関係とコロナの影響で実現できなかった。 ぜひそのような方向での実施を私も考えている。 続いて（３）第６回川崎市地域福祉実態調査について 事務局より説明をお願いします。
事務局（青柳）	次第３（議事） （３）第６回川崎市地域福祉実態調査について
	資料５、６、７－１、７－２、８－１、８－２の説明
和委員	これから結果が集計、分析され、それでお示しいただくということになるので、今回についてはこういった調査をさせていただいた、という報告となる。 何かあればまた後ほど御意見をいただければと思う。 次の議事（４）が本日一番時間をかけて皆様に御意見をいただきたいところになるので、事務局より説明をお願いします。
事務局（青柳）	次第３（議事） （４）第７期多摩区地域福祉計画策定の方向性について（案）
	資料９の説明
有北委員	前回の書面会議で提出した、評価への意見はこの資料には含まれていないのか。
林課長補佐	令和３年度の取組に対する評価について委員の皆様に御意見をいただき、まとめたが、今回はヒアリング結果のまとめをお示しさせていただいており、それ以外のアンケート結果や市の指針、委員の皆様からいただいた御意見も今後参考にさせていただこうと考えている。
有北委員	では（書面会議で提出したものは）次回以降まとまったものが示されるのか。
高橋課長	前回書面会議という形で御意見をいただき、それに対して行政の方でこのように取り組んでいく、というのを関係課も含めて回答をまとめ、お返しさせていただいている。 令和５年度の第１回会議で、令和４年度の各事業の評価について、また参加型評価の手法で御意見をいただく予定となっている。
岸委員	「地ケアTAMA」は昨年発行したのか。
林課長補佐	昨年度から年２回発行している。
岸委員	見かけたことがないが、どこで配布しているのか。
林課長補佐	庁内・関係機関や小田急線の各駅、郵便局等に配架している。
岸委員	自分は出歩かないから見かけない。

発言者	発言要旨
林課長補佐	前回の書面会議の際にも第2号を配布させていただいたので、後ほど御覧いただければと思う。
岸委員	病院などに配架するのはどうか。多摩病院のようなところをはじめ、医師会であれば小児科や内科など、ケアが必要な方々は病院に行きがち。そういったところで配布してもいいのでは。 いつも行政のチラシなどは配ってはいるが行き渡らないことが多い。クリニックでの配架など、希望があるのであれば協力できる。
林課長補佐	ありがとうございます。 地域でどのような活動をしているのか、多くの方の目に触れていただけるように配架先を広げていきたいと考えているので、ぜひ医療機関等でも配架させていただけるよう御協力いただければと思う。よろしく願いいたします。
和委員	基本目標3の基本方針2の「区民・団体・民間・行政の連携」が重点的な取り組みとして第6期計画にあるが、「医療との連携」というところも、広報で連携できるのはとてもありがたいことだと思う。 いいものを作ってもそれが配信されない、目に届かないということが多いので、様々な分野から皆様にお越しいただいている、懇談会形式のこういった会議の場で、今の岸委員からのお申し出も含めて連携できるといいと思う。
木澤委員	ヒアリングを受けたので私の意見も資料9に反映されていると思うが、常々思うことだが、これまで「自助」「互助」を前面に押し出して取り組みを進めてきたと思う。ボトムアップで「ここまでやったから助けてください、足りない所をお願いします」という視点の広報の仕方だといいと思うが、「自助」「互助」が前面にきて「公助」は最後にある。私は逆ではないかと思う。まずは「公助」で、足りないところを「自助」「互助」だと思う。「自己責任でやるように」という感じを受けるので、そのあたりを計画策定する際に考えていただけるといい。
和委員	横浜市港北区の第3期計画を策定する際に部会長を務め、同様の御意見をいただいた。横浜市は行政と社会福祉協議会がしっかり連携する意識があるが、行政と社協はここまでやります、ここの部分は住民主体で皆さんに担っていただきたい、という示し方ができるといいのでは、といった結論で計画策定を行ったことがあった。 木澤委員がおっしゃるとおり、それぞれがしっかり協働し、行政はここまでやる、社協はここまでやる、地域住民の皆さんにはこの部分を御一緒にお願いしたい、という形がとても分かりやすいし押し付けられていないと思う。 一緒に地域福祉計画を推進していくというのが分かりやすくなると思うので、今いただいた御意見も多摩区の地域福祉計画に生かしていけるといいと思う。

発言者	発言要旨
松本委員	多摩区の福祉計画ということで、非常に幅広い方々に対しての計画となっており、色々なニーズを取り込んでいこうというのはいいが、一人ひとりの区民にしてみたら自分に関係があるところと関係がないところがあり、1冊の冊子の中で自分に関係があるところを見てもよい、という風にはならない。自分や自分の家族に関係があるところについてどう行政にお願いしていくか、というところかと思う。 こういった計画をつくるのはいいが、それをPRし、区民一人ひとりの目につくようにしていく、そういったことも冊子作製と同時に進めていけるといいのではないか。 町会の掲示や回覧など必要なことはするが、見る人と見ない人はいるし、町会に入っていない人、そういったことに関心がない人もいる。しかし、そういった方々の中にも支援を求めている人はいると思うので、そういったことも同時にやっていけるといいと思う。
和委員	資料9の最後にある「見せ方」の部分が大事になってくると思う。 市内の他区では冊子を2種類作成し、読みやすいハンディタイプのもので作成している。また横浜市の例では動画を作成し、掲載されている2次元コードを読み込むと動画を見ることができ、ビジュアル的に分かりやすくなっている。それで興味を持った方は冊子見ていただく、というような工夫をしているところもある。 ぜひ来年度の第7期計画策定に関して皆様と意見交換する際に、どういう風に見せていくか、というところも具体的に検討させていただければと思う。

発言者	発言要旨
有北委員	去年民生委員を退任した。自分の親の介護や自分自身のことで手が回らなくなってきたことが理由。子どものことは長年やってきたが、地域のことまでできない。限界を感じ、本当に疲れてしまった。 そういう状態で民生委員をやるのは本意ではないので退任させていただいたが、私のような状況の方はどんどん増えていくと思う。一緒に活動していた民生委員の方の中でも、御病気でお休みされたり、途中から出てこれられなくなったりといったことがどんどん増えている中で、顔と顔が見える関係で助け合えと言われてもできない。だから民生委員は増えないのだ、ということを、身をもって感じている。 それでもできることはやろうということで、こども文化センターに伺ってお話を聞く機会があったが、民生委員の半分以上がこども文化センターを知らない、足を運んだこともない、その機能についても知らないということが分かってびっくりした。こども文化センターができてから50年以上経っており、民生委員は児童委員も兼ねているので当然知っていて当たり前だと思っていたが、実は全く知られていない、ということがショックだった。自分は子育て支援の活動をしているので、民生委員の方々は当然知っていると思っていたがそうではなかった。 これが地域の現場の現実だと思う。情報が行きわたっていないという話があったが、皆さんが思っている以上に情報が行きわたっていないし、地域はつながっていない。そう思った方がいい。 各地区の取組について、それぞれの地域特性にあった取り組みをしているとのことだが、例えばこども文化センターとのつながりづくりを各地域で、通年でやっていくとか、統一したテーマで繰り返しやるべきことが実はあるのではないかと、思う。資料を見て各地域で統一したテーマはないように思うが、現場でつながる、集う取組があるのであれば教えていただきたい。 資料10-2-2にあった、菅の里の庭づくりプロジェクトはとてもいいと思ったが、こういう取り組みを各地域でやってはどうか。 コロナ禍で3年間閉じこもっていることで、精神的なストレスを抱えている方が非常に増えているのを日々感じていた。中にはノイローゼのようになって大量のメールを送ってくる方とか、非常に攻撃的になっている方だとか、何人もの方に会って、ストレスをどこで発散したらいいのか分からないのだと感じた。

発言者	発言要旨
有北委員	私自身が植物や畑に興味を惹かれるので、去年シェア農園を借りて農業の入口を学んだ。そこから自分の庭も畑にし、ベランダ菜園もやり、今、そのことが非常に良かったと感じている。人間は自然と触れ合っていないと精神的に追い詰められていく。人と人との交流もいいが、自然環境との交流というのも非常に大事だとよく分かった。人間と自然との結びつきが福祉につながっていく部分もあると思う。川崎市制100周年記念の一環で全国緑化フェアが川崎であるが、そういう施策とも結びつけたような福祉というのも考えてみてはどうか、とこの3年間で強く思った。 藤本敏夫という方が2002年に農林水産省に『里山往還型半農生活』がこれからの地域に必要な」という趣旨の建白書を提出した。それについて農林水産省も細々と審議をしているようだが、障害者の施設で農業をやっているところはいくつもあるが、本当に皆さん生き生きしているし、地域の人たちもそこにに関わることでいいコミュニティができているという実践例もあるので、少し視点を変えたものと福祉と結び付けていくことも考えられるのではないかと、と思う。
和委員	20～30年前になるが、アメリカの科学者で「リチャード・ループ」という方が、今の若い方、子どもたちは自然に触れていないから心身の健康を害しているのだ、という「自然欠乏症」を提唱し、非常に世界的なセンセーショナルを巻き起こしたことがあった。多摩区は生田緑地をはじめ緑豊かな区であり、有北委員がおっしゃった、多摩区らしい福祉の切り口として大事な資源だと思うので、次期計画にどこまで文言を入れるか、といったことを皆様と検討できるといいと思う。多摩区らしい地域福祉の取組のフィールド、ツールになるのではないかと、思う。 先ほどお話にあった、「こども文化センターを知らない」「地域資源を知らない」というところでは、菅地区の取組「Team SUGA」で、ツアーを組んで地域資源を知る、という取組を行っている。皆様が行っている素晴らしい取組が知られていない、ということがあるので、それを知る機会をどう増やしていくか、それはツアーもそうだし他の取組もそうなのかな、と思う。 第7期計画の「福祉と民間企業のマッチングの視点」というところで考えると、（商店街連合会の）安陪委員、いかがでしょうか。

発言者	発言要旨
安陪委員	「ミライノバ」「ハレノヒ」の取組について資料に記載があるが、この取組は幸いにも地域の若い方が多く、何かやっていきたい、という意思を強く持っている団体の方が集まっている。区画整理で更地になっているところでにぎわいをつくろう、皆で集まって楽しい話し合いの場ができないか、というところから始まっている。 人が集まるのはにぎわいが必要だが、にぎわっているところは昔からの強いつながりがあり、「地」の人が色々話し合っってその場を発展させてきた。そこに新しい施設、商業施設ができるとパッとその場が開けていくが、景気が悪くなると撤退、ということになると、前からその地域にいる人にとっては「いいとこどりだ」と感じる。昔からいる人たちが作ってきたものと、新たに入ってきた人たちとの連携がうまくいかず、地域が崩壊する。まちづくりは様々な団体の力を合わせて、昔からのつながりがあって進んできており、一朝一夕でできているわけではない。こういう深い歴史、つながりを踏まえ、その地域に入ってお手伝いする、この土地はどんなところだったのだろう、というような考えを持ち、一緒に発展させよう、というような「絆」のようなものを理解した上で進めないとうまくいかない。 資料は良くまとまっているが、では自分がその取組の中に入っていくにはどうすればいいのか、入り方が分からないという方が多いのではないかな。 歴史を知らないで新たにやろうと思ってもうまくいかないし、入って行けないということが多いのではないかな。
和委員	登戸、向ヶ丘遊園はどんどん新しくなっているの、新旧の方々の連携もそう簡単にはいかないという実情がある、ということをお話いただいたと思う。 今は過渡期であり、市制100周年の取組も色々あるので、ピンチをチャンスに、ということで、多摩区の現状や未来を見据えたところも踏まえ、具体的にどうやっていけるのか、ということ、色々な分野の方々がいらっしゃるこの懇談会で話していただけるといいのでは、と思う。 昔からある商店の皆様方がまだまだいらっしゃるかと思うが、私の例でいうと、子どもが2人いるが小さい時から地域の方々が見てくださっていて、お声がけいただいている。昔からのお店を構えていらっしゃる方々の見守り、暖かいまなざし、というのが多摩区らしいな、と感じる。 新しい商店、まちが作られていく中でも、昔からの見守りの眼差しといったものを大事にしていくためにはどうすればいいか、ということだが、安陪委員がおっしゃったように新旧の連携は難しい、ということかと思う。

発言者	発言要旨
和委員	来年度に向けて、方向性を皆様方と共有し、検討するということはなかなか今までやってこなかった。事務局からも説明があったように、年度が始まってすぐに「ではこれでいきます」「時間がありません」となる中で、次期計画策定の前段階で方向性を共有し、皆様方に御意見をいただく、またはその資料をもとに次年度計画に向けてお考えいただく時間を少し取る、というのは、いい進め方だと思うので、今日の資料や意見交換の内容を踏まえて、次期計画に向けてぜひ積極的に皆様方の御意見をいただければ嬉しく思う。
松本委員	安陪委員から商店会のお話があったが、資料9の中で「企業と行政」とあるが、企業は商店街以外の企業もたくさんあるかと思うが、どういう方々との協力を想定し、具体的にどのようにやろうと考えているか。例えばこういう会議にはそういった企業の方々は出席していないが、そのあたりを伺いたい。
林課長補佐	現状では「地域見守りネットワーク事業」の中で、企業の方々と見守りの取組について連携している。具体的にこういったことをやっていこう、というところはまだ検討中なので、今後どういう風に取組ができるか、検討させていただければと思う。
岸委員	今度「フロンタウン」ができると思うが、あそこをうまく活用できないか。フロンタウンサイドと話し合ってみては。 地元の方をはじめ川崎市民が多く訪れると思うが、広報や啓発活動の部分をうまくフロンターレと連携できればいいのでは、と思う。
佐久間委員	「企業」と聞いたときに、まずは新聞屋、水道屋などが浮かぶが、実は先日新聞屋から連絡があり、地域包括、消防と一緒に伺った。その方は残念ながら亡くなっていたが、そういった地域の見守り体制というのは非常に大切だと思った。 担当地区は山坂が多く道が狭く移動が大変な地域だが、ここ最近空き家問題がクローズアップされている。2年前ぐらい前に車座集会で市長も交えて話をしたが、そういった場所を集会場として使用するような取組ができると空き家問題の解消という点でもいいと思う。 高齢の方の声を聴くと、市民館や区役所で色々なことをやっているが、そこまで行けない、という方が非常に多いので、いこいの家やこども文化センター、ちょっとした集会場など、地域レベルの集会場で開催していただくと行ってみようか、となるのではないかと思います。
高橋課長	松本委員から「企業との連携」についてご意見をいただいたが、神奈川県の実業にはなるが、ソフトバンクと連携してスマホ講座をやっていただいたり、認知症サポーター養成講座を銀行などのいくつかの企業から依頼を受けて実施したりするなど、少しずつ連携しながら進めている。 先ほど岸委員からフロンタウンについてご意見をいただき、福祉の視点ではそういった視点はなかったが、そういったご意見をいただいたので次期計画に向け

発言者	発言要旨
	て検討していきたいと思う。
和委員	今回御意見をいただいたので、「こういうのもあるな」「こんなことをやってみたいな」と、委員の皆様それぞれに御意見や、取組んでいらっしゃる事を整理していただき、次回の会議に臨んでいただければと思う。
和委員	それでは議事３（５）その他について事務局より説明をお願いします。
事務局（林課長補佐） （高橋課長）	次第３（議事） （５）その他
	資料１１、衛生課チラシの説明
和委員	以上をもって議事を終了する。進行を事務局へお渡しする。
高橋課長	和委員、議事の進行ありがとうございました。それでは閉会にあたり、地域みまもり支援センター所長の加藤からご挨拶を申し上げます。
加藤所長	次第６（挨拶）
高橋課長	以上をもちまして令和４第２回支え合いのまちづくり推進会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。